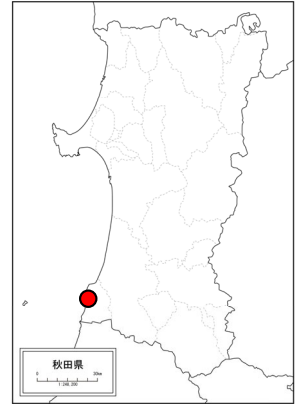


7.【水域：増殖場】 泊地の有効活用とつくり育てる漁業との連携：金浦漁港（秋田県にかほ市）

概要

- 金浦漁港では、生産量は安定しているが、魚価の低下により陸揚金額が伸び悩んでいた。
- 自然調和型漁港づくりとつくり育てる漁業との連携を図り、水産生物の良好な生息環境の場を漁港漁場で一体的に整備した。
- 港内の水質改善により磯根資源が拡大し、漁獲量が向上。漁獲増に伴う加工品の開発・販売等も実施し、地域振興にも寄与している。



背景

- 魚礁や増殖場の整備により、生産量は安定しているものの、魚価の低下により陸揚金額が伸び悩み。
- 消費者ニーズの高いアワビ、イワガキ、ヒラメ等の資源増大に向けた取組が必要。

有効活用の内容

- 自然調和型漁港づくりとして、海水交流促進型防波堤、資源増殖型防波堤を整備し、港内の静穏度確保と水質向上を両立し、港内水域を漁場として積極的に利用。
- つくり育てる漁業として、泊地をマダイの中間育成水面に活用しているほか、港内静穏域を利用したワカメ養殖を実施している。

活用した漁港施設	水域（泊地）
実施時期	平成14年度～23年度
活用した事業	水産基盤整備事業（自然調和型漁港づくり推進事業）
実施した手続き	占用許可



効果

- 港内の水質向上
COD：2.8mg/L(H7)→1.4mg/L(H16)
DO：6.3mg/L(旧港内)→6.8mg/L(新港内)
- 磯根資源の増殖
アワビ：10t/年→12t/年
イワガキ：124t/年→154t/年
- つくり育てる漁業の取組（R1実績）
 - ・マダイ中間育成 1.2 t
 - ・ワカメ養殖 352 t（概算値）
- 地域振興の取組
 - 漁獲増に伴う加工品の開発・販売（カレイ加工品を地元や首都圏で販売）
 - 掛魚まつり等の地域イベントの開催や観光、都市交流との連携の実施



地域イベントの様子